

第2次長久手市 地域協働計画

～ゆるやかなつながりで 協働を醸成する～

令和6年3月
長久手市

目次

第1章 計画の策定にあたって.....	1
(1) 計画策定の目的.....	1
(2) 計画の位置付け.....	1
(3) 計画期間.....	2
(4) 計画の策定経過.....	2
(5) アンケート調査結果.....	3
第2章 長久手らしい協働のあり方.....	1 2
(1) ビジョン.....	1 2
(2) 協働を実践する主体の役割.....	1 3
(3) 基本的な考え方.....	1 4
(4) 協働の実践プロセス.....	1 5
第3章 協働を進めるための施策.....	1 6
第4章 計画の検証.....	2 0
資料編	

策定経過（ワークショップニュースレター）

第1章 計画の策定にあたって

(1) 計画策定の目的

「協働」とは、多様な主体が「よりよいまちにしたい」という共通の想いのもと、信頼関係を築いて責任と役割を分担し、地域の課題解決のために協力して行動することです。

協働のまちづくりは、互いに声をかけ合い、人が集うところから始まります。互いの知識、関心、経験、好奇心を持ち寄り、その場の「対話」を通して新しいアイデア、価値観、エネルギーが生み出されることで、まちづくりを自分事として行動することにつながっていきます。

2009年3月に策定された「第1次地域協働計画」では、市民と行政の協働という考え方を浸透させるため、協働の必要性、協働の原則、協働の進め方などの「協働の定義」を整理しました。また、施策として、行政の取組を中心に進め、その結果、市民と行政の協働が実施されました。一方、計画の策定以降、2018年7月に「みんなでつくるまち条例」が施行され、市民主体のまちづくりを進めていく中で、多様な協働の形が見られるようになってきました。

そこで、長久手らしい協働のあり方を再定義し、対話を通して地域課題に向き合う協働のプロセスとその実践に向けた取組をまとめた「長久手市第2次地域協働計画」を策定します。

(2) 計画の位置付け

みんなでつくるまち条例

第4条 まちづくりの基本原則「協働の原則」

第10条 市民主体のまちづくり「市民参加及び協働」

第6次長久手市総合計画の基本目標「やってみたい」でつながるまち

- (1) 地域の担い手づくりの推進
- (2) 地域における活動の場の整備と活用
- (3) 市民活動や地域活動に参加しやすい環境づくり

(3) 計画期間

本計画は、第6次長久手市総合計画と関連するため、総合計画の目標年度と合わせた2028年度を目標年度とします。

なお、社会情勢等の変化に的確に対応していくために、施策の内容、計画期間を検証し修正、更新することが可能な計画とします。

(4) 計画の策定経過

長久手市第2次地域協働計画の策定に向けては、2021年度から3年間、協働の実践の場となるワークショップを開催して、長久手市らしい協働のあり方について、市内外の参加者との対話を繰り返し、ビジョンと施策の案を導きだし、2023年度に計画としてのとりまとめを行いました。

2021年度 オンライン形式 8回開催 延べ140名参加

2022年度 対面形式 6回開催 延べ109名参加

2023年度 対面形式 16名参加

※ワークショップの開催結果の詳細は、巻末の資料編を参照

(5) アンケート調査結果

ワークショップの意見を補完するために 2022 年度に実施した市民意識調査の結果を基に、市民の協働やまちづくりに関する考え方、傾向を確認しました。

① 調査の概要

ア 調査の方法

調査地域	長久手市
調査対象	長久手市に在住する満 18 歳以上の市民
標本数	3, 000 人
抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送または WEB による回答
調査期間	令和 4 月 7 月～ 8 月

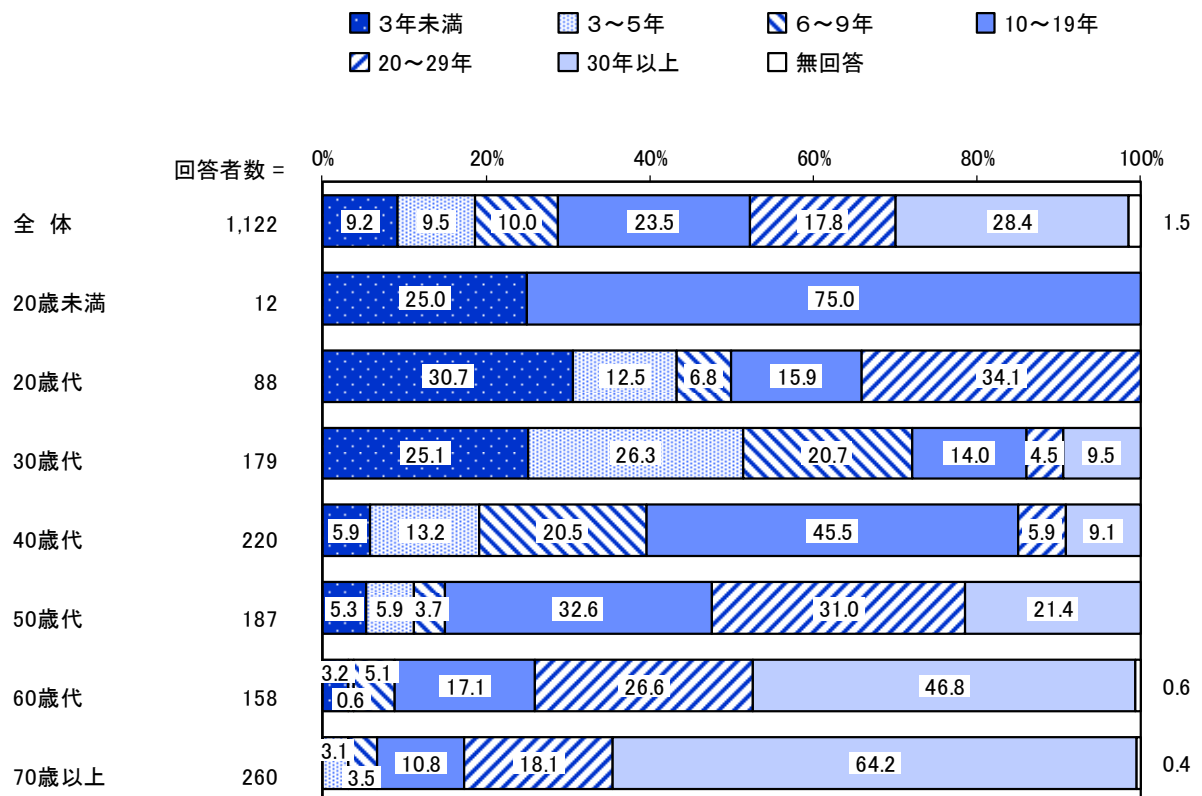
イ 回収状況

配 布 数	有効回答数	有効回答率
3,000 通	1,122 通	37.4%

② 調査結果

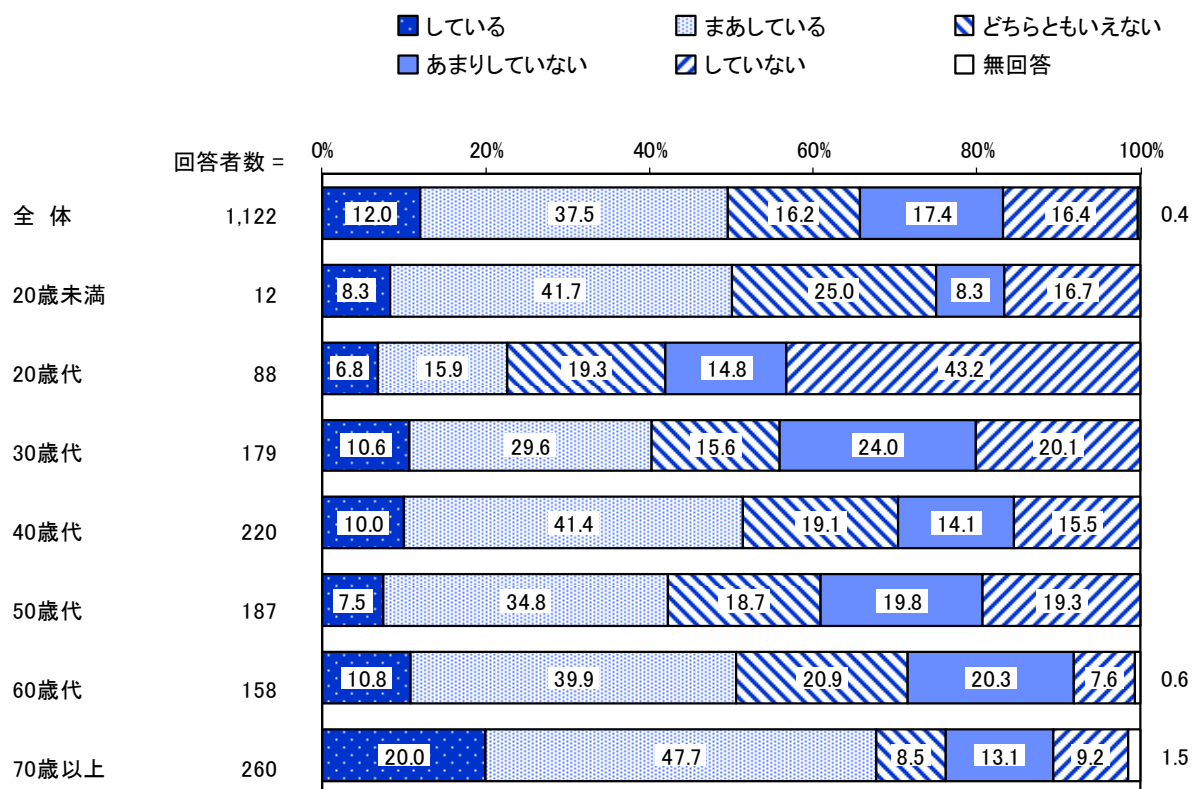
ア 長久手市に居住して何年になりますか

回答者の居住年数は、「30 年以上」が 28.4%と最も多く、次いで「10～19 年」(23.5%)、「20～29 年」(17.8%) となっており、10 年未満は 3 割弱となっている。



イ 日常的に近所づきあいをしていますか。

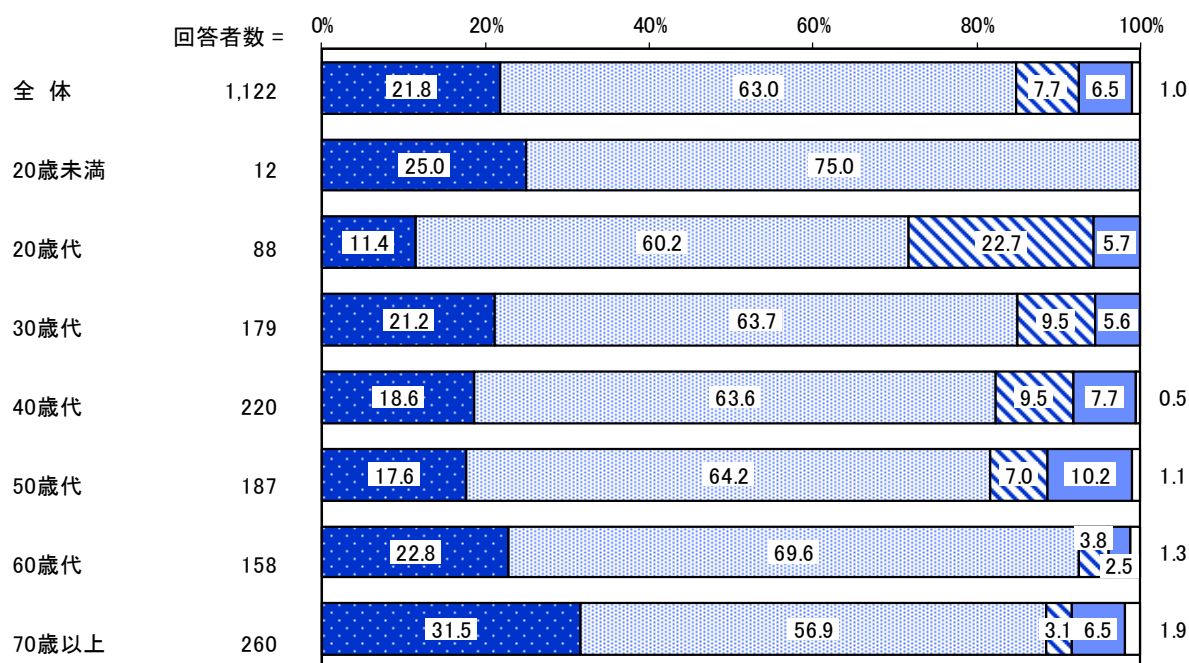
日常的な近所づきあいの有無については、「している」が12.0%、「まあしている」が37.5%となっており、合わせると49.5%となっています。



ウ あなたは、隣近所とのつきあい方についてどのような思いがありますか。

隣近所とのつきあい方に対する思いについては、「顔見知りではありたいが、ほどほどがよい」が63.0%と最も多く、次いで「地域での支え合いや助け合いなど、つきあいを大切にしたい」(21.8%)と続いている。

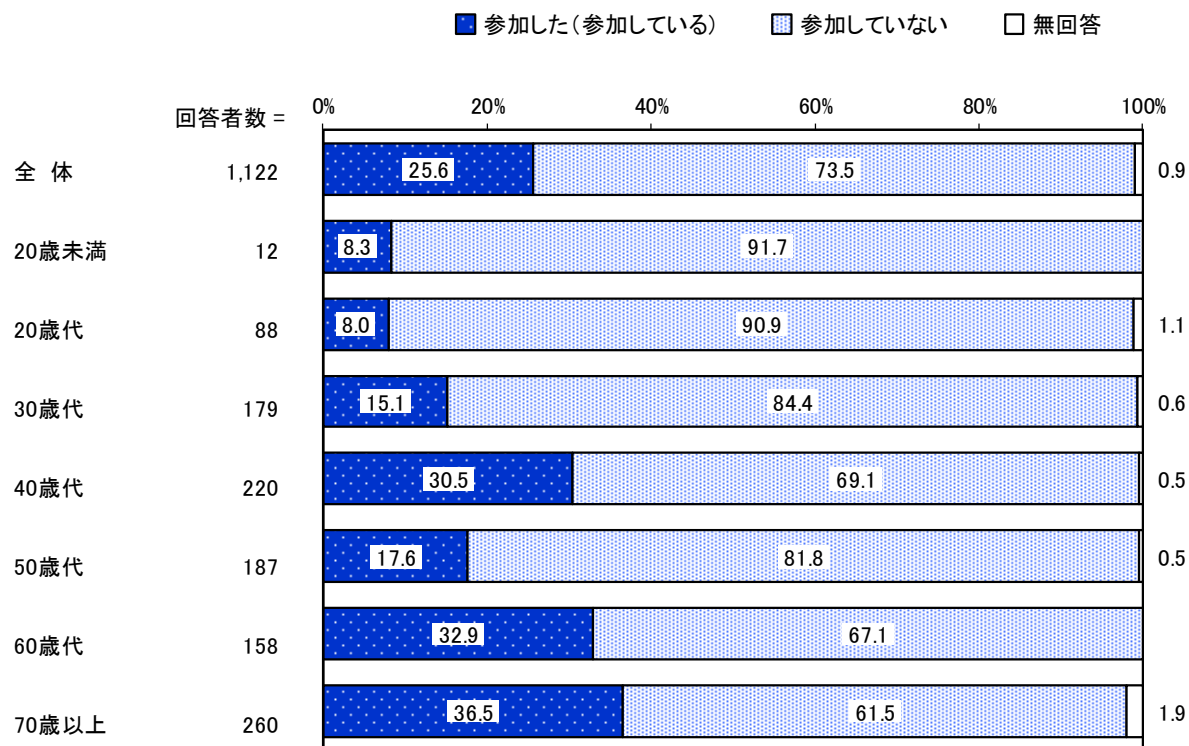
- 地域での支え合いや助け合いなど、つきあいを大切にしたい
- 顔見知りではありたいが、ほどほどがよい
- 他につながりがあれば、近所づきあいはなくてもよい
- わずらわしいので、互いに干渉しあわず生活したい
- 無回答



エ 地域活動への参加について

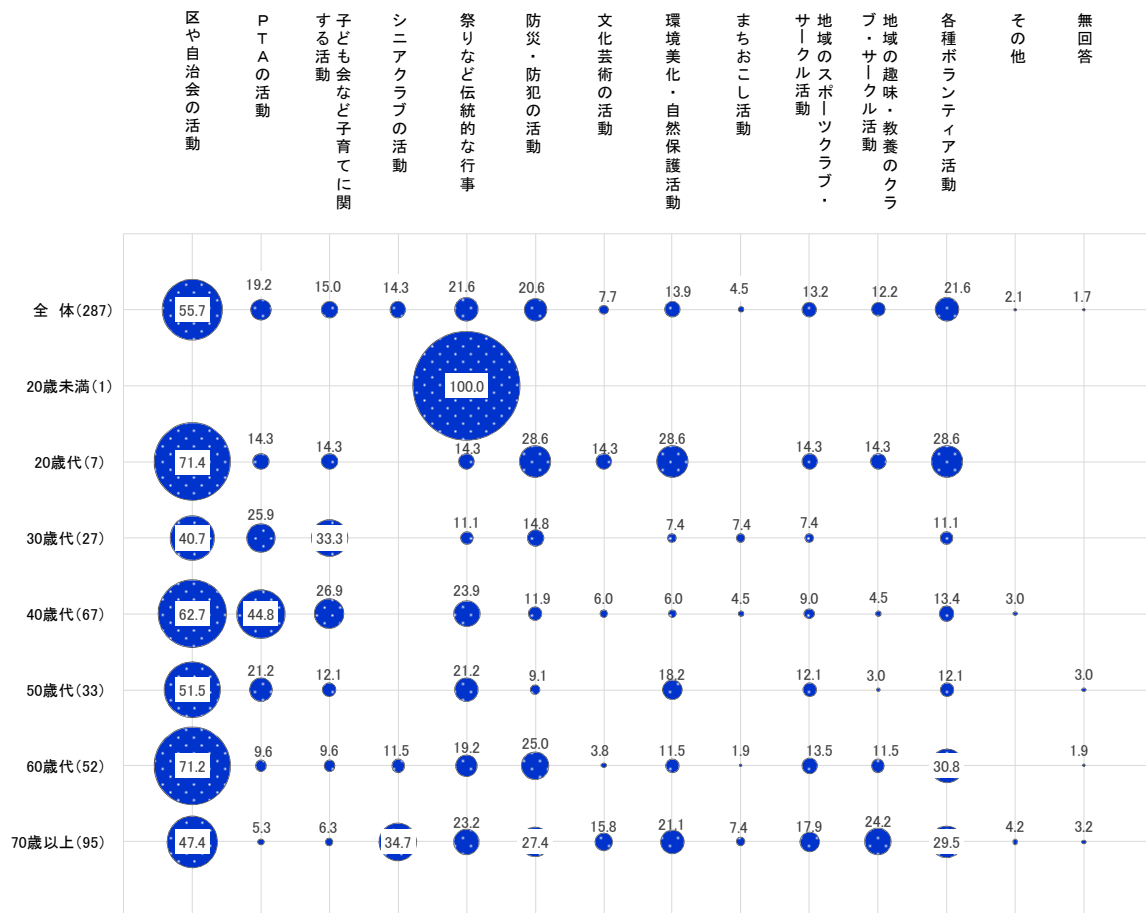
あなたやあなたのご家族は、過去３年以内に地域を盛り上げたりしていくための活動スタッフとして参加したことはありますか

過去３年以内の地域活動スタッフとしての参加有無について、「参加した（参加している）」は 25.6%、「参加していない」は 73.5%となっている。



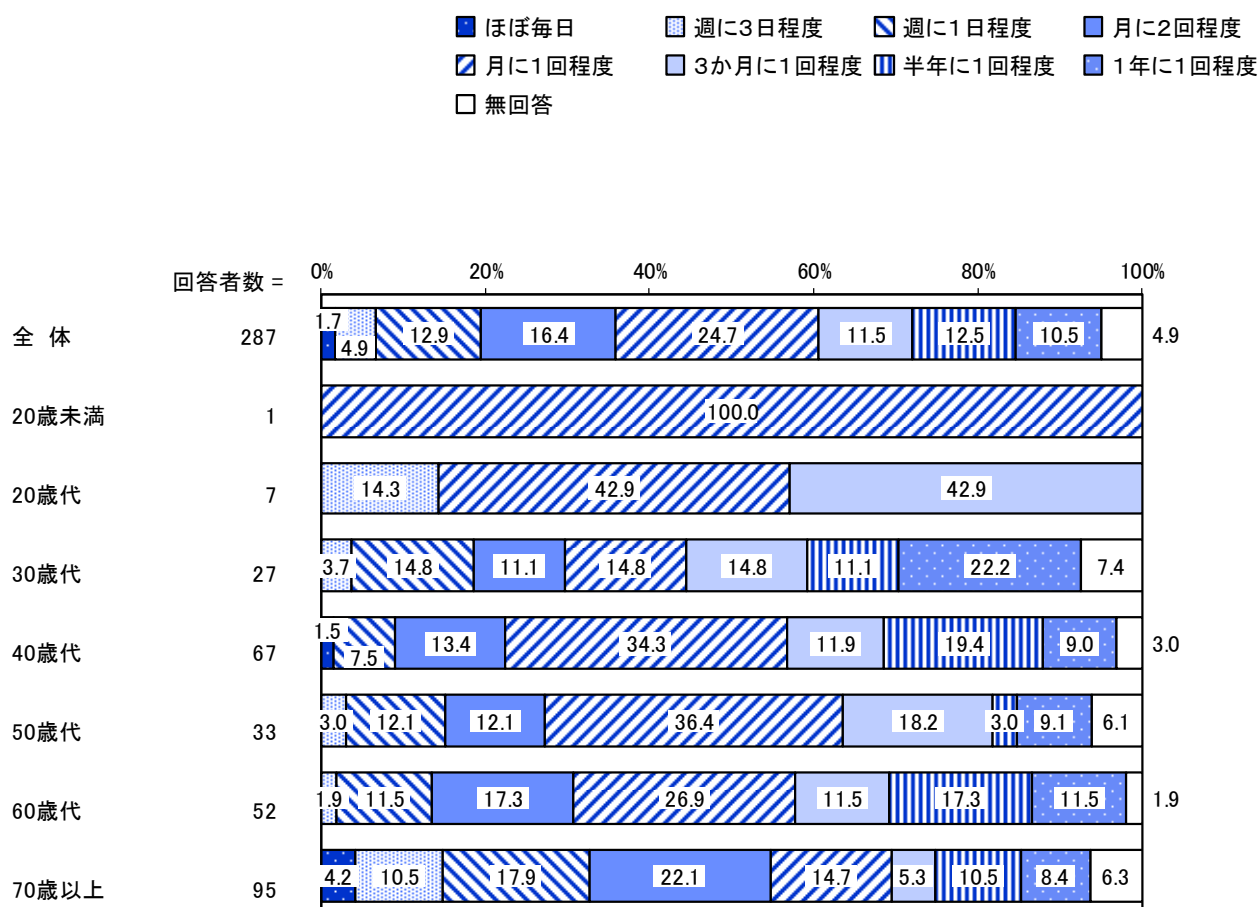
オ どのような活動に参加していますか

参加した地域活動の種類としては、「区や自治会の活動」が55.7%と最も多く、次いで「祭りなど伝統的な行事」、「各種ボランティア活動」（それぞれ21.6%）となっている。



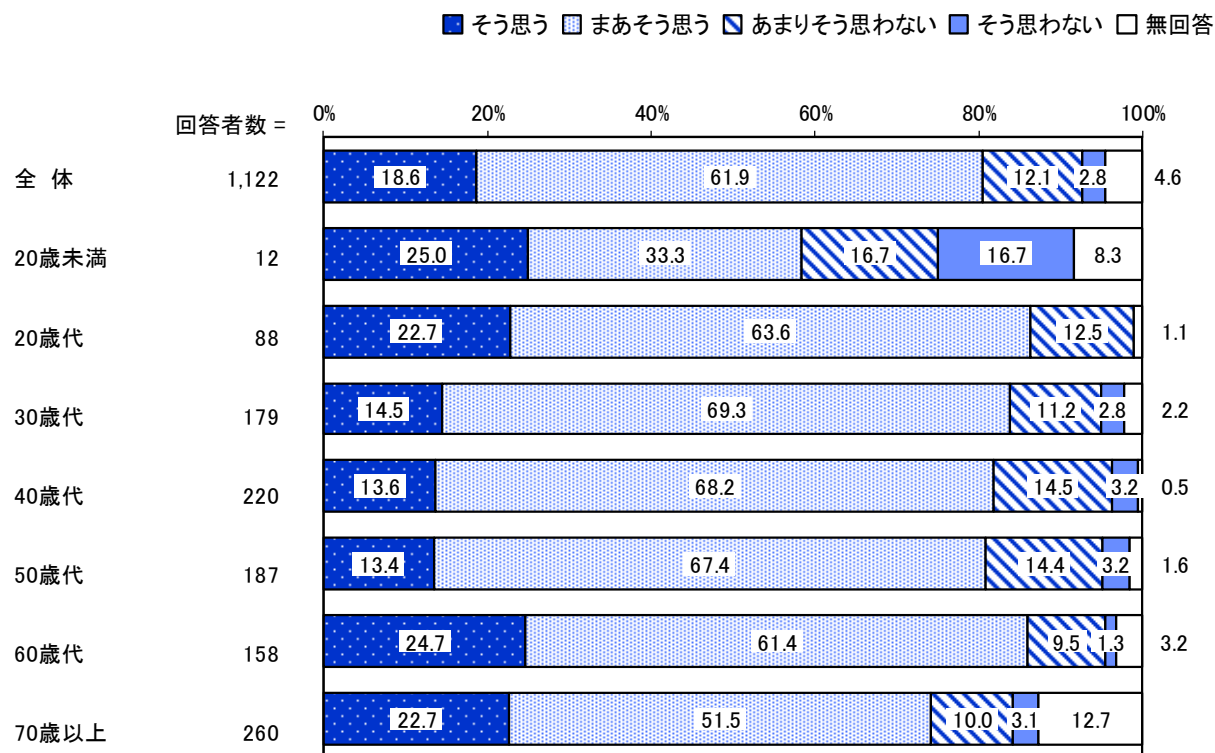
カ どの程度の頻度で参加していますか

参加した方の地域活動への参加頻度としては、「月に1回程度」が24.7%と最も多く、次いで「月に2回程度」(16.4%)、「週に1日程度」(12.9%)となっている。また、「月に1回以上」(「ほぼ毎日」「週に3日程度」「週に1回程度」「月に2回程度」「月に1回程度」の合計)は60.6%と約6割となっている。



キ これからのまちづくりには市民の参画や協働が必要

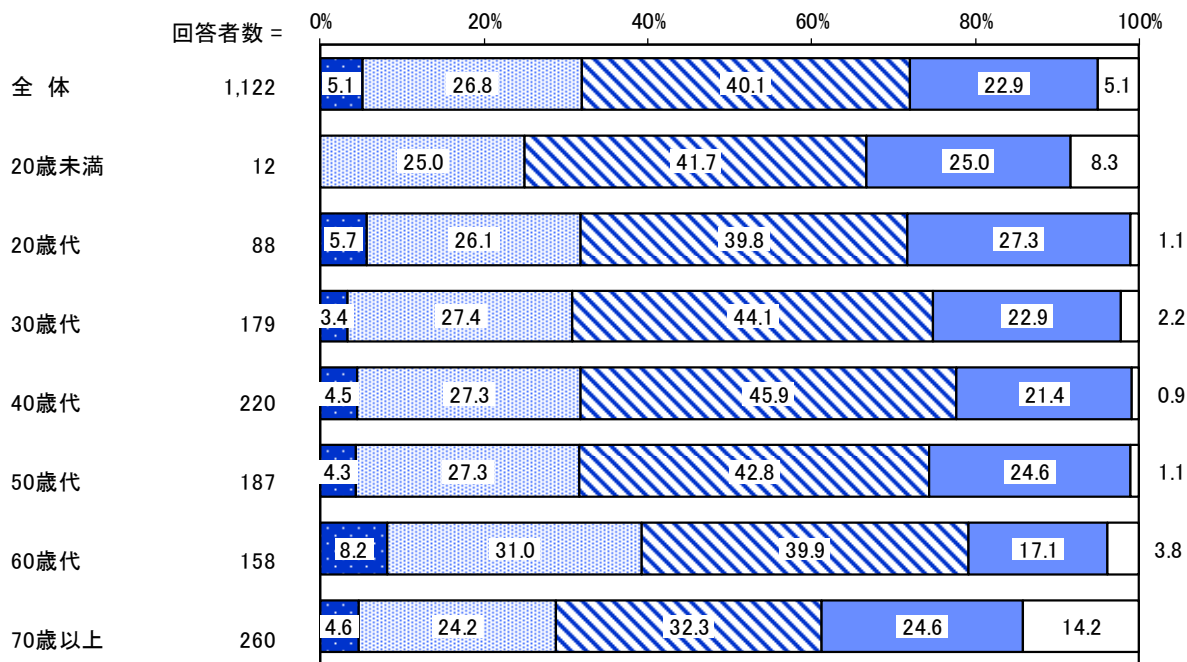
市民参画や地域協働の必要性について、「そう思う」と「まあそう思う」の合計が8割を超えています。



ク 地域活動やボランティア活動、NPO 活動に参加したい

地域活動やボランティア活動、NPO 活動への参加意向について、約 3 割の方に参加意向があります。

■ そう思う □ まあそう思う ▨ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



第2章 長久手らしい協働のあり方

(1) ビジョン

ワークショップでは「**つながりが希薄**」ということが、参加者の共通の話題になりました。居住年数やまちへの関わり方の違う、異なる背景を持った市民が長久手で暮らしており、さらには在住の市民だけでなく、大学などに通う在学の市民、企業などに務める在勤の市民、市民活動を行う在活の市民など多様性と複雑性を持った市民が関わりをもっています。

ワークショップにおいては、新たに長久手に住み始めた市民は、「**強くて深いつながりを求めているのではないか**」との仮説を立てて、**長久手らしい協働**について話し合いを進めました。その結果、協働の入口は浅くて弱いが広いつながりが適しているのではないかという考え方に至り、「**ゆるやかなつながりで協働を醸成する**」ことをビジョン（目指す協働のカタチ）として掲げることになりました。

多様性や複雑性を生かしながら、ゆるやかなつながりで協働を実践するために大切なのは「対話」であり、そのための「場」の確保が求められます。このことから、地域共生ステーション、リニモテラス公益施設、まちづくりセンターなどの市内のまちづくり施設を対話、企画、情報の拠点とし、対話のネットワークを広げる構想も生まれてきました。

(2) 協働を実践する主体の役割

① 市民

「私のまち」の意識を持ち、まちの課題を解決するために、出来ることを出来る範囲で、対話を通じ楽しくまちづくりに貢献します。

② 大学

「知のネットワーク」の中核として協働に必要な情報を提供します。学生は自身のキャリア形成のため、まちの資源を活用し、自身の行動力で実践に貢献します。

③ 企業

地域課題の解決のために、企業が持つ資源を活用して、持続可能な協働のまちづくりに貢献します。

④ 行政・議会

まちの課題解決を地域協働で実践するためのしくみやインフラなどを整備し、対話を促進し、協働を支援します。

(3) 基本的な考え方

多様化、複雑化する地域社会における課題解決のためには、市民の協働が必要です。「つながりが希薄」な長久手でどうアプローチしていくのかを考えます。

つながりが希薄（弱い）なことは、一見すると協働のまちづくりを進めるための弱点にも見えます。しかし、ワークショップでは、あえて「ゆるやかなつながりの強み」（弱いつながりの強み理論※）を生かして協働のしくみをつくり、実践することを目指すものとなりました。

※「弱いつながりの強み理論」とは

スタンフォード大学の社会学者マーク・グラノヴェッターが1973年に論文発表をして提唱した社会ネットワーク理論の一つで、社会ネットワークにおいて、直接的につながっている強いつながりよりも、間接的なつながりである弱いつながりの方が情報伝達や機会提供においてより効果的であるという理論です。

弱いつながりの強み理論によると、強いつながりは限定的な情報や機会に制限されがちであり、情報や機会の多様性に欠ける傾向があります。一方で、弱いつながりは複数の社会集団や情報源とつながっているため、多様な情報や機会を提供しやすく、社会的な動きやすさを高める役割を果たします。

「ゆるやかなつながりの強み」を生かすには、協働の実践プロセス全体を通して、心理的安全性が確保されており、「継続的な対話」ができる場が必要です。

参加者がワクワクするような楽しいワークショップ、ゆるやかなネットワーク、意欲的なプロジェクトで課題解決を図ります。

プロジェクトに必要な人や情報を集め、活用できるようなしくみを構築します。

（４）協働の実践プロセス

◇観察・共感

多様化、複雑化した地域社会の抱える課題は、日常的な市民の気づき、行政の課題などから見えてきます。アンケートやヒアリングで見えてきた課題に同じ目線で向き合うこと（共感すること）が大事になります。



◇課題の定義

多様な主体を集めた「継続的な対話」を通して、解決すべき課題について、その原因も含めてはっきりさせ、共通の考え方をを見つけ出します。



◇創造

課題を解決するために具体的にアイデアや意見を出し合っていきます。
原因は何か、どうしたら解決できるのか、さまざまな角度から発想していきます。アイデアに対して批判したりせず、自由な発想でたくさんのアイデアを出すことが大事になります。



◇試作（プロトタイピング）

「まずは、実際にやってみる！」 自ら行動し、周りを巻き込み、協働しながら、新たな試み、アイデアを形にしていきます。失敗しても、改善点を見出し、どんどんアイデアを出して直していきます。

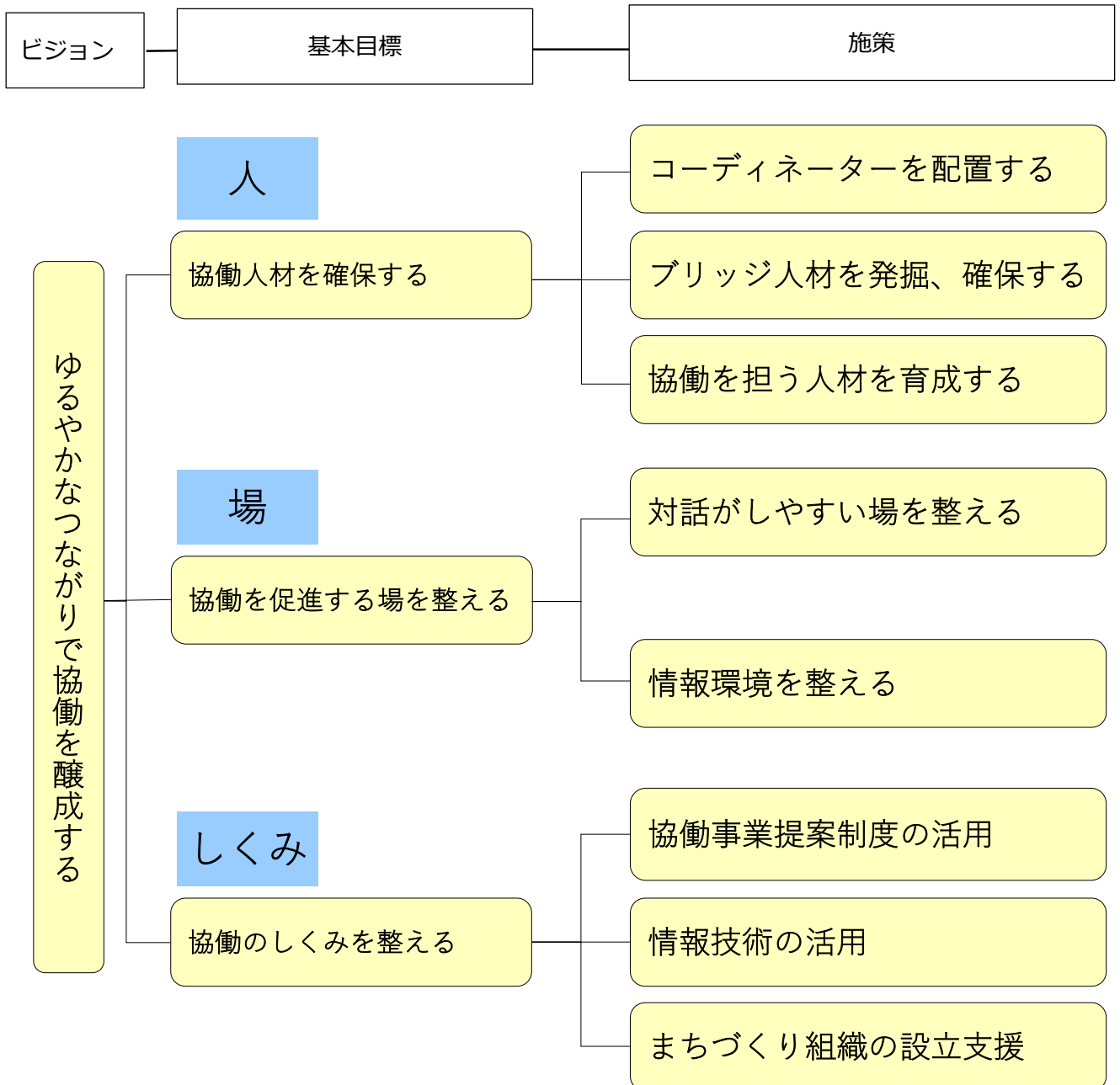


◇テスト（検証）

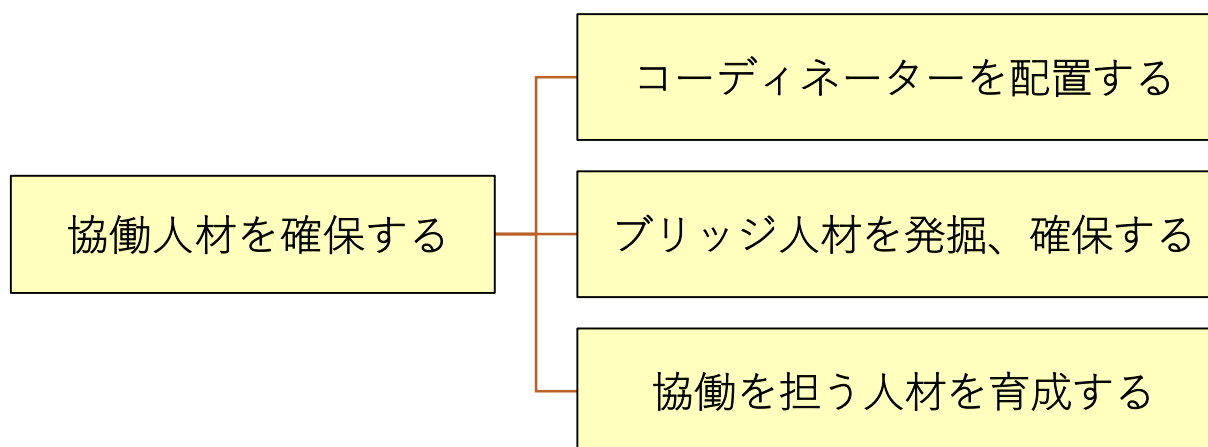
実際にやっていく中で、「これで課題は解決できるのか」確認していくプロセス。検証しながら、試行錯誤を繰り返して、よりよい形にしていきます。

第3章 協働を進めるための施策

施策の体系



基本目標1 協働人材を確保する



(ア) コーディネーターを配置する

まちづくりの拠点（まちづくりセンター、地域共生ステーション、リニモテラス公益施設など）に、市民活動や地域活動の相談窓口、そして活動の調整役となるコーディネーターを配置します。

(イ) ブリッジ人材を発掘、確保する

ブリッジ人材は、地域や市民活動、大学、企業などに関わりを持ち、その関係性を活用して協働したい人と人を結びつける役割を担います。

協働の取組を通じてブリッジ人材を探しだし、その情報が共有できるしくみをつくります。

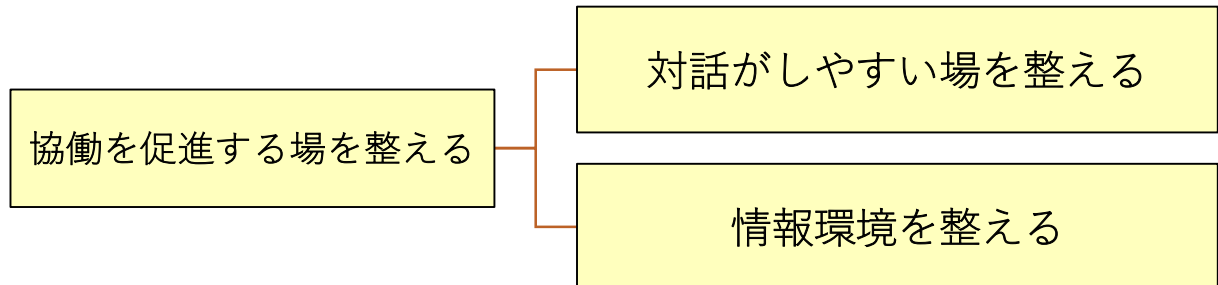
※ブリッジ人材とは・・・異なる分野や文化、組織などの間に存在する障壁を超えて、結びつけることができる人材

(ウ) 協働を担う人材を育成する（協働の裾野を広げる、関われる人を増やす）

協働のまちづくりの要となる人材を育てるため、ファシリテーション等の講座を開催します。協働に関わる機会を増やし、裾野を広げていきます。

（対象は市職員、学生、企業、市民活動団体などのあらゆる市民や団体）

基本目標 2 協働を促進する場を整える



(ア) 対話がしやすい場を整える

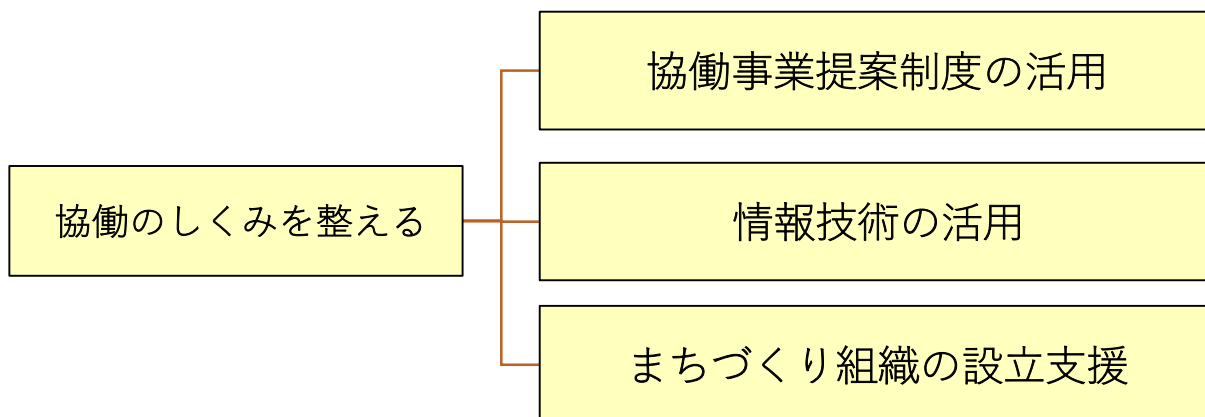
協働を進めるためには、誰もが自由に集まって、何でも話せる場が必要です。まちづくりの拠点を集まりやすく、リラックスした雰囲気アイデアを育む場に整えていきます。

(イ) 情報環境を整える

協働を進めるためには、協働事業やそれに関わる人材の情報を共有できるしくみが必要です。

まちづくり拠点において、情報環境を整え、協働に関する情報を発信・集約し、情報の共有ができる場にしていきます。

基本目標 3 協働のしくみを整える



(ア) 協働事業提案制度の活用

協働まちづくり活動提案事業は、新たに協働で事業を始めることをサポートする制度となっています。これからも地域や行政が抱える課題の解決に向けた取組を支援する制度として、改善を繰り返しながら活用していきます。

(イ) 情報技術の活用

協働事業を進めるためには、情報技術の活用により、事業を広く知らせ、伝え、そして多様なアイデアを集めることが必要となります。SNSなどを活用して、多様な意見を拾うことができ、それを事業に反映させることのできるしくみを整えていきます。

(ウ) まちづくり組織の設立支援（みんなでつくるまち条例第12条）

まちづくり組織は、市民が主体的に、地域の将来像と計画をつくり、継続的なまちづくりに取り組むためのしくみです。地域特性や実情に合わせてまちづくり組織が設立されるように市民の活動を支援していきます。

第4章 計画の検証

市は、毎年度、この計画に沿って協働が行われているかについて、年度ごとの協働の実績を踏まえて検証を行います。検証にあたっては、市民、大学、企業などの協働実践者を交えた場を設けます。

市は、検証結果にもとづき、協働をさらに推し進める施策について検討します。また、必要に応じて本計画の内容を変更します。

資料編

長久手市地域協働計画策定ワークショップ

第1回～第4回までのレポート

長久手市くらし文化部たつせがある課

令和3年10月発行

計画の概要

平成31年に市民の皆様と協働して、
第6次総合計画(ながくて未来図 2019～2028)を策定しました。
その中で、基本目標の一つに『やってみたい』でつながるまち、
地域共生を支える人づくりの施策として

“①地域の担い手づくりの推進

②地域における活動の場の整備と活用

③市民活動や地域活動に参加しやすい環境づくり”があります。

今回の長久手市協働計画は、この3つの施策に沿った計画を※「市民主体の計画づくり」にて策定します。

※みなさんの生活に関係する、各種計画の策定過程を知ってもらい、ご意見を出し合ってもらうことにより、より多くの人が
納得できる計画を市民のみなさまと一緒に作ることです。



具体的な取り組み<スタッフの想い>

- ・多様な人に参加してもらおう(産学官)
- ・コロナ禍であり、オンラインワークショップで開催する(長久手初)
- ・継続する楽しさを演出する(プログラムに工夫)
- ・計画策定を協働の実践の場としよう(大学生がブレイクアトルームファシリテーターを担う)

スケジュール

第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
日時: 7月31日(土) 13:00～16:00	日時: 8月28日(土) 13:00～16:00	日時: 9月11日(土) 13:00～16:00	日時: 9月25日(土) 13:00～16:00	日時: 10月23日(土) 13:00～16:00
テーマ: 夢を語ろう! あなたのやりたいこと できること	テーマ: 長久手らしさ とは?	テーマ: 協働のカタチ	テーマ: 解決策を生み 出す	テーマ: 提案作成
目標: お互いに知り 合う	目標: 発想の転換を 図り、長久手 ユニークを創 る	目標: 協働のアイデ アを爆発させ る	目標: 実現性を検討 し、提案を策 定する	目標: 実行プラン作 成し、提案書 にまとめる

第1～4回のオンラインワークショップを実施しました

- ・多様な人に参加いただきました
34名(男女各17名)延べ84名
- ・市民 6名、・市民団体 6名、・学生 7名、・大学 4名、・市関連 2名、職員 6名、・スタッフ 3名
*企業2社には、毎回話し合ったことを報告しました

◆スタッフの感想

- ・最初は通信環境不調で画面から消える人が発生したが、Zoomの操作スキルも上がりました。
- ・日頃交流の少ない多世代他分野の人との対話の場をデザインしたことで楽しく進行してきた。
- ・大学生がワークショップを担当したことで、参加者の笑顔での話し合いができました。
- ・オンラインワークショップでは必要な時間設定で実施したことで、満足度の高い評価を得ている。
- ・社会状況によりますが、5回目終了後にリアル懇親会の要望をいただいています。

◆ブレイクアトルームファシリテーターの感想より

- ・色々な属性のコーディネーターを用意してまずはまちセンに行きたくなるようにする、
という意見には皆さん納得して賛成している様子でした。
- ・「できるか分からないけど、やってみたら面白そう」という発想をグループで大切にできたのは
良かったなと感じました。また、お互いの意見を尊重し合うことができました。
- ・「それをするにはどうしたらいいか。」「具体的にはどんなもの?」などのように、次回はもう
少し話を掘り下げて、もっと面白い話し合いになるようにしたい。

1回目 夢を語る…あなたのやりたいこと、できること 協働の第一歩を踏み出す

①自分の夢を語る
②旅に出て、自分に加えて協働の夢を語る

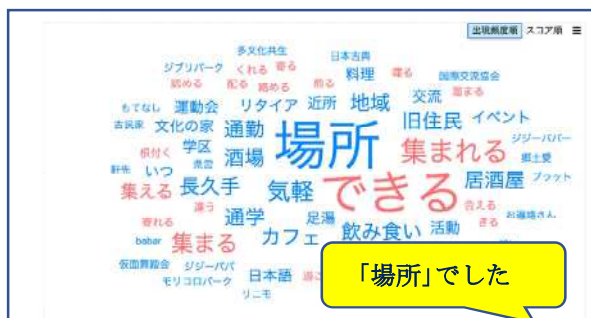
- ①長久手のイマイチは？
- ②イマイチを特徴にする視点は？
- ③特徴から生まれる価値は？

- ①ハラハラするがワクワクできるつながりとは？
- ②あなたは何をしていますか？つながりが実現した 10 年後
- ③新しいつながりを発明するための 3 つの要素は？

① ②危険だが居心地の良い場(BA)とは？
③ワクワクして一歩踏み出す始めの一歩とは？

[illegible]

支援 活動 コミュニティ 防災 復興 ボランティア 寄付 相談 情報 ネットワーク 協力 支援金 物資 避難所 生活 健康 教育 文化 スポーツ 芸術 音楽 読書 映画 テレビ ラジオ インターネット スマートフォン タブレット パソコン カメラ マイク スピーカー ヘッドセット キーボード マウス プリンター スキャナー ファクシミリ コピー機 複写機 複合機



長久手市地域協働計画策定ワークショップ

第5回のレポート

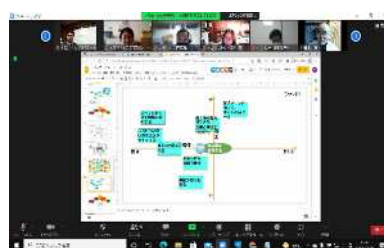
長久手市暮らし文化部たつせがある課
令和3年11月発行

第一回(7/31)から始まったワークショップの第五回(10/23)の報告書です

第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
日時: 7月31日(土) 13:00~16:00	日時: 8月28日(土) 13:00~16:00	日時: 9月11日(土) 13:00~16:00	日時: 9月25日(土) 13:00~16:00	日時: 10月23日(土) 13:00~16:00
テーマ: 夢を語ろう! あなたのやりたいこと できること	テーマ: 長久手らしさ とは?	テーマ: 協働のカタチ	テーマ: 解決策を生み 出す	テーマ: 提案作成
目標: お互いに知り 合う	目標: 発想の転換を 図り、長久手 ユニークを創 る	目標: 協働のアイデ アを爆発させ る	目標: 実現性を検討 し、提案を策 定する	目標: 実行プラン作 成し、提案書 にまとめる

＜第5回の参加者＞

- ・19名(男10名・女9名)
- ・市民3名・市民団体3名・学生4名・大学1名・市関連2名・職員4名・スタッフ2名
- ・Zoom操作にも慣れました
- ・画面を共有しての話し合い
- ・ブレイクアトルームファシリテーターのKさん



◆スタッフのコメント

- ・第二回以降の目標は、「発想の転換を図り、長久手ユニークを創る」「協働のアイディアを爆発させる」「実現性を検討し、提案を策定する」と実施してきて、今回の目標は「長久手らしい協働の具体策を決める」計画の拠点である「まちづくりセンターをアルパカ牧場のような場(BA)にする」ために(人・物・情報)に分かれ、既成観念に捉われない**想像的対話**を行いました。
- ・今回のテーマが難しく、最初は戸惑っていたが話し合いが進むにつれて盛り上がったようです。
- ・回数を重ねたことで、テーマの理解が進み対話が深まったとの声がありました。
- ・リアルだとアドバイスがしやすく、各グループに任せであったが、参加者の積極的な協力とBRFの努力により当初予想もしなかった、創造的なアイデアが多数発掘できました。

◆ブレイクアトルームファシリテーター(BRF)の感想より

- ・今回は、みんなで相談して決めるという協力する面が強く、参加者同士のまとまりを感じた。
- ・上下関係を気にせずに、長久手市民の一員という捉え方で、お互いを尊重し合うことができたのが良かった。
- ・回数を重ねることで自信をもってBRFを務め、参加者が楽しそうに話し合いをしている姿をみて、とてもやりがいを感じた。

第5回のプログラム＜何を対話したのか＞

テーマ：提案を作ろう
長久手らしい協働の具体策を決める
アルパカ牧場のコンセプトを移転して、長久手らしい
協働の場（BA）を始める具体策を決める



＜プログラムと感想＞

Part 01 オープニング 新しいつながりのイメージを固める

*チャットを転載した



「笑顔で自己紹介・気軽に声をかける」
「会う人とニコリ」「自由さが認められるつながり」
「見守るつながり」「きっかけがあること」
「オンラインゲームなどで趣味を通じてつながる」
「思ってもいなかった人とつながる」「時空を超えたつながり」
「誰でもふらっと集えるようなつながり」「出会い頭」
「温かい見守りのつながり」「リアルなSNS」
「オンラインとオフラインで、自分らしくつながる」
「感染症をブロックするような笑顔の眩しい」

「クーテングーナで今日は」「嫌いなのに好き」「ズーム飲み会」
「今の自分が想像していない未来へ導いてくれるつながり」

・人それぞれの思い描く
「新しいつながり」

Part 02 アイスブレイク 新しいつながりのイメージを共有する

いいね自己紹介&イメージ共有

*コメントはアンケートから抜粋した



・自己紹介を兼ねつつ、他の参加者のつながりに対する思いを聞くことができた
・それぞれ出たイメージに対して、自分のイメージを膨らませたり、いいと思った点を交流できた
・話しやすくなりました

Part 03 対話会 ラウンド1～3

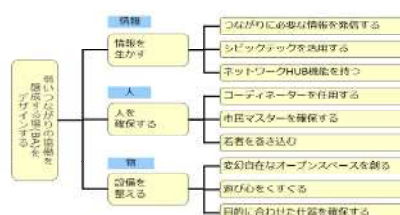
対話会
浅いが快適なつながりで
協働するアイデアを
爆発させる

ラウンド1：20分間
アルパカ牧場のようなまちセンとは
ラウンド2：30分間
具体的なアイデアを爆発させる
ラウンド3：25分間
実行可能な施策のアイデアを決める

アルパカのコンセプト



地域協働計画実施項目ロジックツリー案



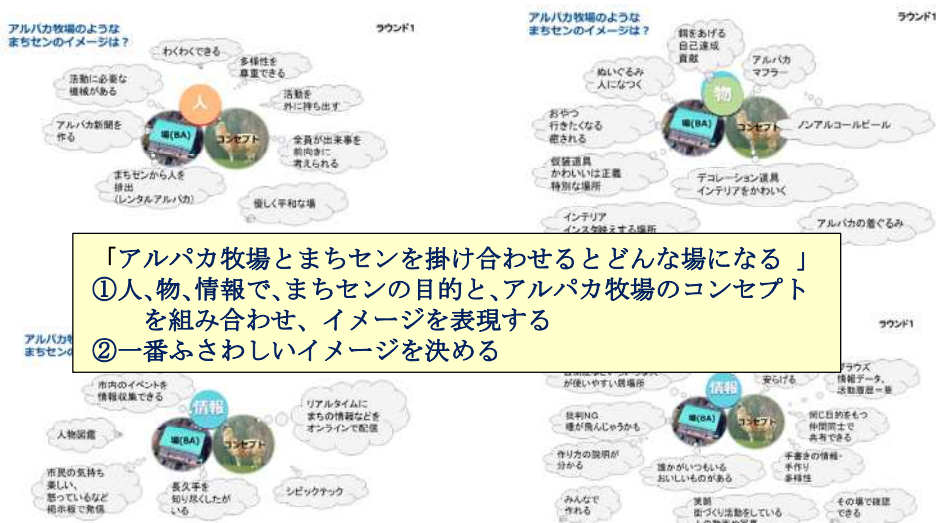
Part 04 エンディング

◇発表・・・各チームが選んだ解決策を共有した

◇収穫・・・今日の気づきを各自メモした

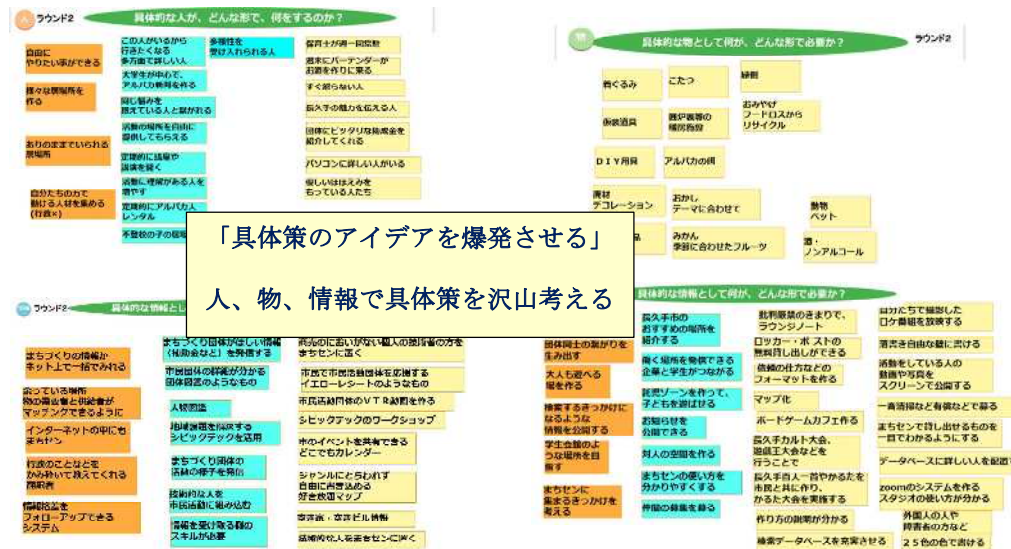
＜対話から生まれた成果物＞

ラウンド1 「アルパカ牧場のような まちセンのイメージは？」



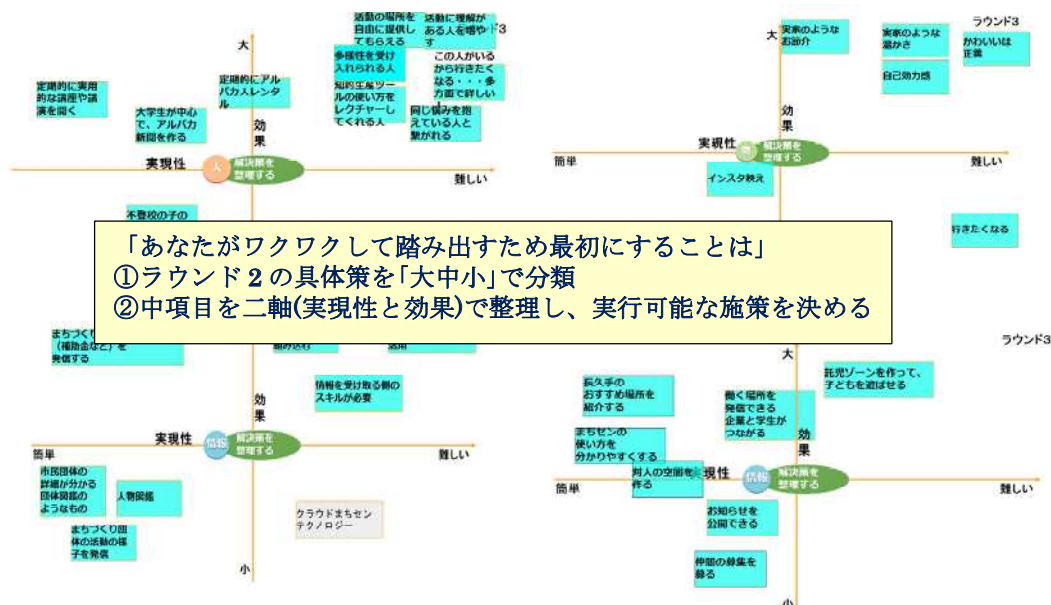
「アルパカ牧場とまちセンを掛け合わせるとどんな場になる」
 ①人、物、情報で、まちセンの目的と、アルパカ牧場のコンセプトを組み合わせ、イメージを表現する
 ②一番ふさわしいイメージを決める

ラウンド2 「まちセンの場としてのイメージを 実現する具体策は？」



「具体策のアイデアを爆発させる」
 人、物、情報で具体策を沢山考える

ラウンド3 「あなたが踏み出す 始めの一步は？」



「あなたがワクワクして踏み出すため最初にするのは」
 ①ラウンド2の具体策を「大中小」で分類
 ②中項目を二軸(実現性と効果)で整理し、実行可能な施策を決める

AI テキストマイニング結果



- ・アルパカからまちセンに落とし込む発想が難しく、入り口で戸惑ったようです。
- ・実施項目が不明であり、人・物・情報の分類が難しかったようですが、楽しい対話会を行うことができました。

- ・アルパカをテーマにしたことで、今までとは違った視点からつながりについて考えることができた。
- ・具体と抽象の行ったり来たりの対話が良かった。

*アンケートに加筆した

第2次長久手市地域協働計画

- ・多様な人々の参加でオンラインワークションを実施しました

参加者数 34 名(男女各 17 名)延べ 102 名

内訳(・市民 6 名・市民団体 6 名・学生 7 名・大学 4 名・市関連 2 名・職員 6 名・スタッフ 3 名)

主催者からの御礼

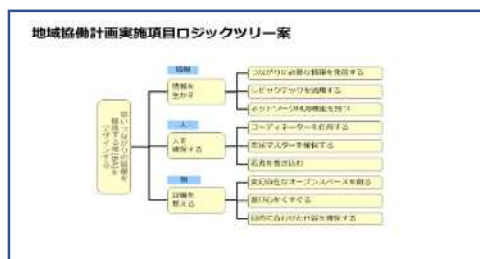
- ・昨年度に計画づくりのワークショップを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、中止しました。開催方法について、まちセンコーディネーターの皆様と協議し、今年度オンラインでのワークショップの開催とさせて頂きました。
- 目的に「自分事の延長線に協働計画を策定して、実践する。そのために、楽しく、学び・対話するワークショップを開催する。」これを実現するには、しっかりした対話が有効であり、そのため多くの時間設定が必要があり不安な状態でスタートでしたが、回を重ねるごとに従来の概念に捉われない対話会となり「長久手らしいアイディア」が多数発掘できました。これは、市民・市民団体に加え学生・大学と多様な方々に参加していただけたからと、この場を借りて、御礼申し上げます。
- また、対話会が楽しく盛り上がった一因は、学生さんがブレイクアウトルームファシリテーターを担ったことと認識しております、計画策定時点からこのような協働が実践できたことも大きな収穫です。
- 今後は、下記スケジュールにて計画完成と実践となりますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

今後の予定

- ・11月20日(土)10:30~12:00 ワークショップ参加者によるリアル交流会
場所：長久手市まちづくりセンター 集会室①
長久手市武蔵塚 101-3 0561-64-6400
テーマ(案)：「つながりを一歩進めるために、もっと知り合おう会」
おまけ：有志によるリモテラス昼食懇親会(12:15~?)

以下は、たつせがある課のスケジュール

- ・11月- 地域協働計画(素案)のとりまとめ
- ・12月-1月 パブリックコメント募集
- ・2月- 地域協働計画(案)のとりまとめ
- ・3月- 地域協働計画策定・公表



長久手市地域協働計画策定ワークショップ

参加者によるリアル交流会のレポート

長久手市くらし文化部たつせがある課

令和3年12月発行

ワークショップ終了後のおしゃべり会にて、「リアルで会って交流したいね!」との声があり実施しました。「年度内に何かやろう!」という意見があり、具体的になりましたら案内します。

<交流会の概要>

- ・日時、場所 11月20日(土)10:30~12:00 長久手市まちづくりセンター集會室①
- ・テーマ 「つながりを一歩進めるために、もっと知り合い・何かやろうよ!」
- ・参加者 13名(男7名・女6名)〈市民 3、市民団体 3、学生 1、職員 3、スタッフ 3〉
- ・内容 あいさつ⇒参加者自己紹介⇒ロジックツリー紹介⇒交流&ミニワークショップ⇒リニモテラス懇親会(有志6名)
- ・会場風景

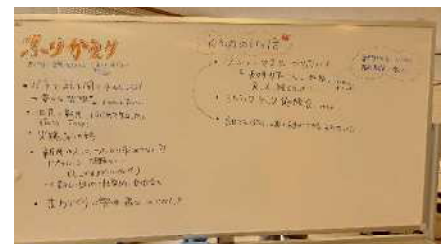
アルパカ風船&小物、アルパカイン



リアル交流&対話



ホワイトボードにて共有



・実施したこと

- ①作成中のワークショップで出たアイデアを実施項目

ロジックツリー(案)の補足説明をした

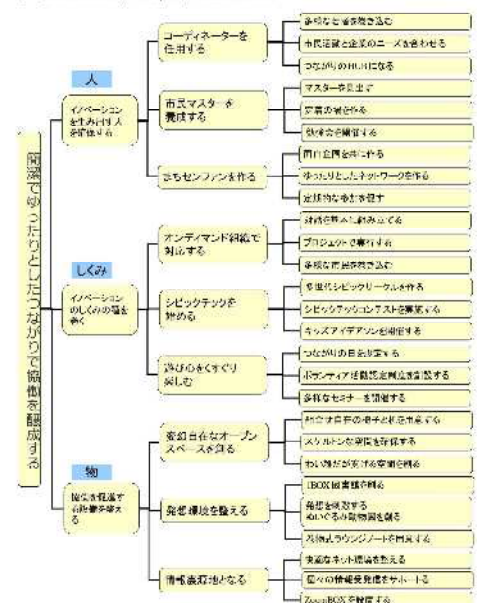
- ②3グループに分かれての交流と対話会

前半:ワークショップを体験して気づいたこと学びを共有した

後半:3月までにやりたいことのアイデア出しを行った

- ・オンラインでも楽しい対話ができ、豊かな発想を出すことができた
- ・新住民は強いつながりを求めておらず、ゆったりとしたつながりの具体策を策定すべきである
- ・3月までにワンデーマスターなどをやりたいという人が現れた
- ・オンラインの方が参加者しやすく、オンラインとリアルのハイブリッド開催も企画すべきである
- ・長久手らしい地域協働計画を実施するには、多様な市民(旧住民・新住民・在勤・在活)との対話会を継続すべきである

地域協働計画実施項目ロジックツリー案
節度で、ゆったりとしたつながりで創る、地域協働計画
3C Comfortable, compact, Collaboration



笑顔の参加者

有志で懇親会



長久手市地域協働計画プロトタイピング プレワークショップのレポート

長久手市暮らし文化部たつせがある課

令和4年03月発行

5月から始まるプロトタイピングの準備会として、有志の皆様の協力によりプレワークショップを開催しました。中日ホームニュースの記者もフル参加され、楽しく悩ましい体験を行いました。今回は、プロトタイピング作業までできず、4月に行うことになりました。

＜交流会の概要＞

- ・日時、場所 3月20日(日)13:30～16:30 長久手市まちづくりセンター集会室①
- ・テーマ 「簡潔でゆったりとしたつながりで、長久手の小さな課題に取り組み、協働のつぼみを作る」
- ・目的 「プロトタイピングワークショップの成功に向けて、プログラムをデザインする」
- ・参加者 13名(男8名・女5名)＜市民 1、市民団体 4、学生 2、記者 1、職員 2、スタッフ 3＞
- ・内容 チェックイン⇒マシュマロチャレンジ⇒あなたの目は正しいか？⇒地域協働計画策定WSで分かったこと⇒小さな課題を決める⇒(解決策出し、プロトタイピングは次回へ)

・実施したこと

①アイスブレイク(マシュマロチャレンジ)



18分間で高いタワー作りに挑戦

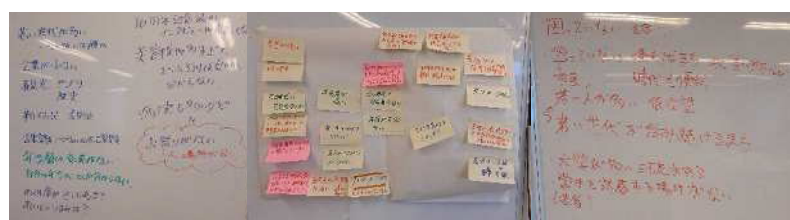
- ・「難しい」は禁句
- ・出たアイデアを試作
- ・時間は過ぎるが土台ができず
- ・1グループのみ成功(70cm)

②課題を決める(共感と定義)



3グループで対話

小さな課題ってなあに！



次回(4月24日(日)13:30～16:30)は、いよいよ試作づくりです。

ワクワクドキドキ楽しく作り上げましょう！

長久手市地域協働計画プロトタイピング

第二回プレワークショップのレポート

長久手市暮らし文化部たつせがある課

令和4年04月発行

5月から始まるプロトタイピングの準備会として、有志の皆様の協力によりプレワークショップを3月20日に続きプロトタイピングまで実施しました。楽しく話し合い、そして想像もしなかったアイデアが出ました、今回参加できなかった皆様にも本番に参加いただき「あなたの智恵をお貸しください」。

<交流会の概要>

- ・日時、場所 4月24日(日)13:30~16:30 長久手市まちづくりセンター集会室①
- ・目的 「プロトタイピングワークショップの成功に向けて、プログラムをデザインする」
- ・目的 「地域協働計画策定に必要な要素を抽出する仕掛けを考える」
- ・参加者 13名(男9名・女4名)〈市民 3、市民団体 3、学生 2、職員 3、スタッフ 2〉
- ・内容 チェックイン⇒発想の転換⇒概要説明⇒デストピアをイメージする⇒ドラえもののひみつ道具⇒プロトタイピング⇒要素抽出⇒ふりかえり
- ・実施したこと

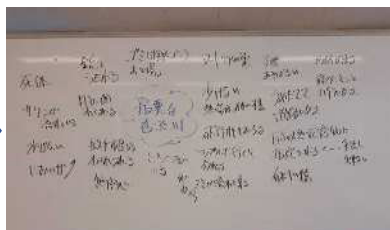
◇アイスブレイク(三人寄れば文殊の知恵) ◇概要説明・目指すもの

- ・ながくてしのまんなか
- ・親子関係 ・熊の毛色
- ・二人はいくら持っている

簡潔でゆったりとしたつながりで、
長久手の小さな課題に取り組み、
協働のつぼみを作る

独創的なアイデアが生まれる様に
頭を柔らかくした
・左脳右脳を刺激し感性を高めた
お約束
・むづかしいと言わず、どうすれば良いか

◇デストピアをイメージ ◇お題は「最悪の香流川」



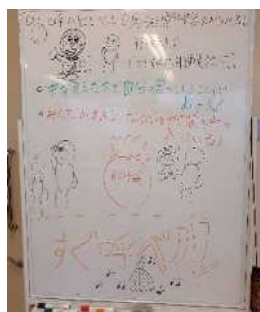
モヤモヤを楽しむ場(BA)ができた

全員で最悪な香流川を出した

- ・死体がどんどん流れてくる
- ・サリンが漂っている
- ・カップルで行くと分かれる
- ・粗大ごみのゴミ捨て場 など

最悪な状態を考え共有することで
好奇心に火がついた様です

◇デストピアをユートピアに変える道具は？ ◇ドラえもののひみつ道具を考える



初めてのプロトタイピング体験

- ①独創「ひみつ道具をイメージし、絵に書く」
 - ②協創「共有し、合体、変身させる」
- ⇒『すぐ呼べる』

『ガンダム型自走掃除ロボット』

アイデアを“カタチ”にするプロトタイピング(試作)することで、新たなアイデアやコンセプトが生まれた

◇地域協働計画に必要な要素を抽出する

主役は誰！(市民・・・在住、在勤、在学、在活)
(ニーズ・・・顕在ニーズ、潜在ニーズ)
場(BA)の要件(人・環境・しくみ)を考えた

長久手市地域協働計画策定ワークショップ
(2021.7~11・・・6回)、市民活動交流会(2022.2)、
プロトタイピングプレワークショップ(2022.3-4)
に参加くださりありがとうございました。
5~9月第三日曜日に、市民主体による長久手市
地域協働計画にもご協力ください。



長久手市地域協働計画策定 第一回ワークショップのレポート

長久手市暮らし文化部たつせがある課

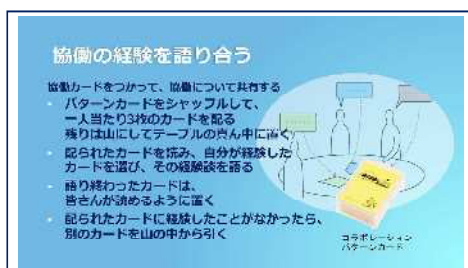
令和4年5月発行

5回シリーズの長久手らしい協働のかたちづくりが始まりました。自己紹介では「昼、何を・何のために・どうやって食べた？」を語り、多くの目的があることを理解し、創造的な未来を創る言語「パターン・ランゲージ(協働カード)」を使い「新しい視点・新しい方法をつくる施策の旅」を語り合いモヤモヤを楽しみました。次に未来の協働を各市民の立場になって考え、コンセプトを仮決めしました。

＜ワークショップの概要＞

- ・日時、場所 5月15日(日)13:30～16:30 長久手市まちづくりセンター集会室①
- ・テーマ 「簡潔でゆったりとしたつながりで、長久手の小さな課題に取り組み、協働のつぼみを作る・地域協働計画を策定する」
- ・ワークショップの目標 「地域協働計画策定に必要な要素を抽出する」
- ・今回の目標 「協働のコンセプトを決める(仮決定)」
- ・参加者 18名(男9名・女9名)〈在住 5、在活 4、在勤 2、在学 3、職員 2、スタッフ 2〉
- ・内容 アイスブレイク⇒協働のイメージを共有する⇒地域協働計画のあらまし⇒協働のコンセプトを問い直す⇒市民の立場で考える⇒コンセプトを決める(仮決定)⇒宿題・アンケート・ほか
- ・実施したこと

①協働のイメージを共有する



3グループで対話

- ・パターンカードで協働の経験を語り合えた
- ・他人の立場に立つ、難しいなあ
- ・4市民をマンダラで発散した
- ・マンダラの中心に長久手らしい協働をイメージした

②協働のコンセプトを問い直す(目的展開)



③市民の立場で考える



④未来の協働のコンセプト



⑥協働のコンセプトを仮決定



宿題：長久手で気になること、スマホ撮影5枚



次回(6月19日(日)13:30～16:30)は、
「**長久手のペルソナを作成する**」
会場：文化の家
1部：まざって長久手フェスタ
13:30-14:30 講演 協働のメカニズム
(*申込はたつせがある課が行います)
2部：地域協働計画策定 WS
14:30-16:30 ワークショップ(美術室)

長久手市地域協働計画策定 第二回ワークショップのレポート

長久手市暮らし文化部たつせがある課

令和4年06月発行

まざって長久手フェスタ講演「なぜ混ざり合うといいのだろう？」-協働のメカニズムをちゃんと理解する-を聴講した後別室にて開催しました。講演の感想を共有し、コンセプト(仮)「まち全体で、薦がる商店街」を目指し、協働する市民のペルソナを仮決めしました。

＜ワークショップの概要＞

- ・日時、場所 6月19日(日)14:45～16:50 長久手市文化の家 美術室
- ・テーマ 「簡潔でゆったりとしたつながりで、長久手の小さな課題に取り組み、協働のつぼみを作る」
 - ・地域協働計画を策定する
- ・ワークショップの目標 「地域協働計画策定に必要な要素を抽出する」
- ・今回の目標 「協働する長久手市民のペルソナを作る」
- ・参加者 20名(男9名・女11名)＜市民：在住 5、在活 4、在勤 1、在学 7、職員 1、スタッフ 2＞
- ・内容 チェックイン⇒地域協働計画のあらまし⇒協働のコンセプト(仮決定)⇒協働する長久手市民のペルソナを作成する⇒ワーク①(在住旧・在住新・在住新新)⇒②(在学・在活)⇒③ペルソナ(仮決定)
 - *後日模造紙をPCデータ化し、AIテキストマイニングを行い、5人の名前・年齢・家族・特徴を決めた
- ・実施したこと
 - ①講演で何に気がついたか共有*



4グループで対話



- ・講演では協働にはハブ人材(優秀なコーディネーター)が語られた
- ・長久手はゆったりとしたつながりを創るブリッジ人材づくり

②協働する市民ペルソナを作成する

問いかけ
協働に参加して欲しい人は
どんな人だったらつながって協働したい
(在住旧・在住新・在住新新・在学・在活)

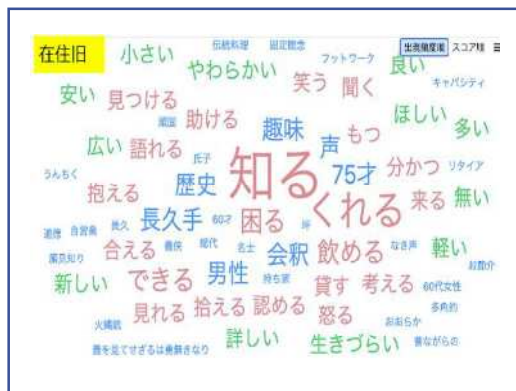


人物像(名前年齢特徴など)

③投票によりベスト3を決めた



*スタッフにて、AIテキストマイニング&3行要約しペルソナを決定した…次回説明します



市民(在住旧)
名前：余裕 有蔵
年齢：70歳 男性
家族：夫婦二人暮らし
特徴：新しい考え方を知ろうとする人
昔ながらの長久手を知っている人
人の話を聞いてくれる人



宿題：長久手で気になること、スマホ撮影5枚

在住新：金子 豊子
在住新新：市が洞 友美
在学：きらきら のぞみ
在活：広田ダイバーシティ活

次回(7月17日(日)13:30～16:30)は、
「協働に必要な場(BA)について探求する」
会場：まちづくりセンター

長久手市地域協働計画策定 第三回ワークショップのレポート

長久手市くらし文化部たつせがある課
令和 4 年 7 月発行

第一回『コンセプト(仮)「まち全体で、薦がる商店街」』、第二回『協働する市民のペルソナを決定』、今回は不慣れな手法(グループマインドマップ)にモヤモヤしながら楽しく対話をしました。

＜ワークショップの概要＞

- ・日時、場所 7月17日(日)13:30~16:40 長久手市まちづくりセンター 集会室①

- ・テーマ 「簡潔でゆったりとしたつながりで、長久手の小さな課題に取り組み、

協働のつぼみを作る・地域協働計画を策定する

- ・ワークショップの目標 「地域協働計画策定に必要な要素を抽出する」

- ・今回の目標 「協働に必要な場(BA)を探求する」

- ・参加者 20名(男10名・女10名)〈市民：在住6、在活4、在勤1、在学6、職員1、ｽﾀｯﾌ2〉

- ・内 容 チェックイン(居心地が良い場とは)⇒共有(気になるもの)⇒今までの経過⇒ワーク①あなたの居心地の良い場とは⇒②ペルソナと協働する場の要素とは⇒③長久手で協働するとしたらどんな場(BA)が理想か?

- ・実施したこと

①4 グループで話し合い (自己紹介・居心地の良い場(BA)とは)



※「〇〇です、なぜなら△△、
例えば◇◇、ですから〇〇」
・友人とのご飯、車内・喫茶店一
人用ひじ掛けイス・一人暮らしの
部屋・実家・大学・森林公園・名
古屋城・布団の中・静かな所

②長久手で気になるもの

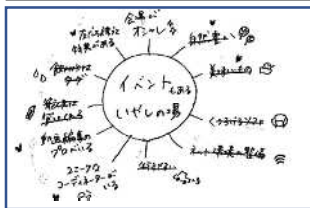


ワーク① ポストイット



② A4用紙にミニマインドマップ

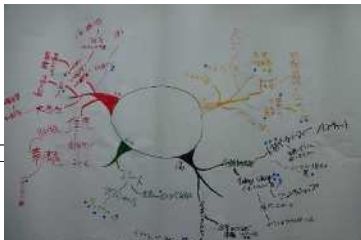
独創(ミニマントマップ)
・アイデアを10個描く



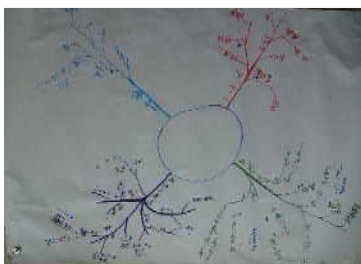
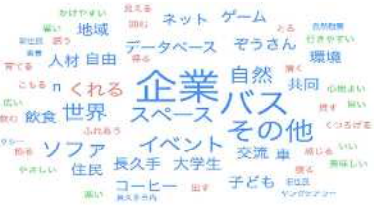
③ みんなでマインドマップ

協創(フルマイント[®]マップ[®])

- ・皆の独創見て幹を決める
- ・幹から枝を伸ばし、アイディアを爆発させる



4グループ
をまとめ
AI テキスト
マイニング
しました

[illegible]

モヤモヤした場面は少なく、
楽しいワークショップでした。
スタッフは後日モヤモヤして
場の要素を抽出した。
皆さんの成果は次回発表し
ます！乞うご期待

次回(8月21日(日)13:30~16:30)

「協働に必要な情報
について探求する」

会場：まちづくりセンター

長久手市地域協働計画策定 第四回ワークショップのレポート

長久手市くらし文化部たつせがある課
令和4年08月発行

第一回『コンセプト(仮)「まち全体で、薦がる商店街」』、第二回『協働する市民のペルソナを決定』、第三回『協働に必要な場(BA)を探索する』でした。今回は新しい視点・新しい方法をつくる思索を支援する「パターン・ランゲージカード」を使い『協働に必要な情報を探索』を行いました。

＜ワークショップの概要＞

- ・日時、場所 8月21日(日)13:30～16:30 長久手市まちづくりセンター
- ・テーマ 「簡潔でゆったりとしたつながりで、長久手の小さな課題に取り組み、

協働のつぼみを作る・地域協働計画を策定する」

- ・ワークショップの目標 「地域協働計画策定に必要な要素を抽出する」
- ・今回の目標 「協働に必要な情報を探索する」
- ・参加者 15名(男10名・女5名)×市民：在住 3、在活 5、在勤 0、在学4、職員 1、スタッフ 2
- ・内容 チェックイン(今朝何食べた?) ⇒アイスブレイク(トシ君のお使い)⇒今までの経過説明
⇒前提共有(情報とは)⇒ワーク①協働パターン・ランゲージ体験⇒②協働のイメージを膨らませる
⇒③協働に必要な情報について考える⇒宿題(ブリッジ人材を理解する)
- ・実施したこと

パターン・ランゲージカード



3グループで話し合い(自己紹介・チェックイン・トシ君のお使い)



トシ君のお使い



手持ちの情報
を見せないで
口頭で伝え
答えを探索



目的適情報収集に気づいた

情報とは



ワーク① 協働の体験を共有(パターンカード使用)



34枚から1枚
選び、各自の
体験を対話した
カードパターン例
・未来への使命感
・ゴールへの道のり
・アイデアをカタチに
・創造の場づくり
・拡がりの戦略

② 協働のイメージを膨らませる



ペルソナさんが協働する上での
カードを吟味し3枚を選んだ
1G・一度こわす、つくり続ける強さ、
インサイド・インパーター
2G・一体感をつくる、弱さの共有、
共感のチームづくり
3G・ファンをつくる、感謝のこたば、
成長のリターン

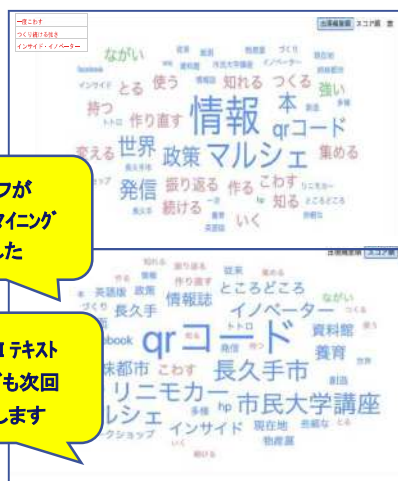
③ 協働に必要な情報について考える

Solution=
問題解決のためのヒント
(カードの表の下に書いてある)
この行動を起こすために
どんな情報が必要か?
どの様に伝えられたら
行動が起きるか?

3つのカードを見て
この行動を起こすための
情報などを模造紙に記入

スタッフが
AIテキストマイニング
しました

他のAIテキスト
マイニングも次回
説明します



事務局からのお礼

市民主体の計画づくりに参加いた
だき、ありがとうございました。
昨年度は5回のオンライン開催と
2回のプレワークショップ、今年度
は全てリアル開催ができ、残す1回
となりました。

次回(9月18日(日)13:30～16:30)

「協働に必要な人について
探索する」

会場：まちづくりセンター

* 連休中ですが、あなたの
協力をお待ちしています

長久手市地域協働計画策定 第五回ワークショップのレポート

長久手市くらし文化部たつせがある課
令和4年9月発行

第一回『コンセプト(仮)「まち全体で、薦がる商店街」』、第二回『協働する市民のペルソナを決定』、第三回『協働に必要な場(BA)を探索する』、第四回『協働に必要な情報を探索』を行い、今回は『協働に必要な我々を探索する』を行いました。

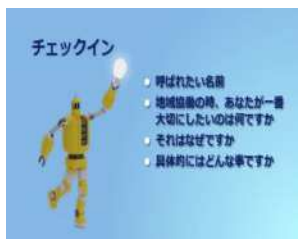
パターン・ランゲージカード

＜ワークショップの概要＞

- ・日時、場所 9月18日(日)13:30～16:30 長久手市まちづくりセンター
- ・テーマ 「簡潔でゆったりとしたつながりで、長久手の小さな課題に取り組み、協働のつぼみを作る・地域協働計画を策定する」
- ・ワークショップの目標 「地域協働計画策定に必要な要素を抽出する」
- ・今回の目標 「協働に必要な我々を探索する」
- ・参加者 19名(男10名・女9名)・市民：在住 6、在活 4、在勤 1、在学5、職員 1、スタッフ 2
- ・内容 チェックイン⇒アイスブレイク(マッチ棒ゲーム)⇒今までの経過説明⇒ワーク①協働のコンポンを探索する⇒②皆と一緒に探索したいことは？⇒チェックアウト
- ・実施したこと

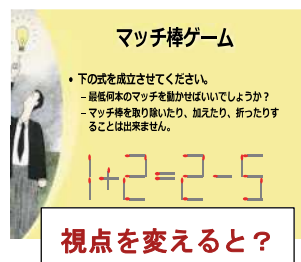


◆チェックイン(地域協働時に大切にしたいのは何?)



- ・つながれる場
- ・協働相手との話合
- ・つながり、助けあい
- ・楽しいことの共有
- ・新旧住民の付合い

◆アイスブレイク



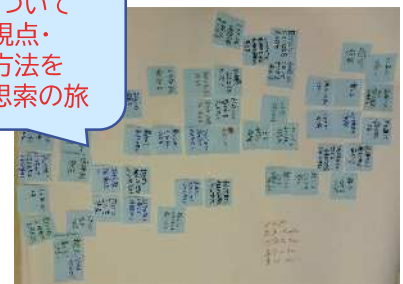
◆ワークショップの流れ



ワーク① 協働のコンポンを探索する(パターンカード使用)



3テーマについて
新しい視点・
新しい方法を
つくる思索の旅



② この指とまれ(メンバーを替えて探索)

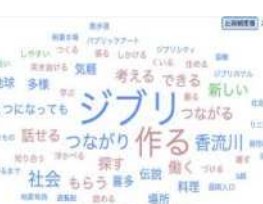
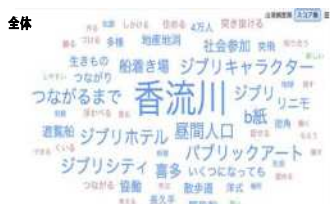
*チェックアウト



車座になって
各自ひとこと
今日の感想
⇒楽しかった



難しいといわず、どうすれば良いかを考え、モヤモヤを楽しみ中



スタッフがAIテキストマイニングしました。ダジェストは⇒

- ・リニモをジブリ電車に
- ・商店街にジブリのアート
- ・幾つになっても自分らしく
- ・突飛なことを考える
- ・集まった額をプレゼント
- ・アンケートで1円かけられる
- ・全住民の意思確認
- ・公園トイレの洋式化
- ・子どもと高齢者が共存
- ・伝統や学び続ける所

次回は報告会です

次回(10月23日(日)13:30～16:30)
「地域協働計画実施項目(案)発表」
会場：まちづくりセンター
*ダメ出しOK! 市民主体の
計画を完成に近づけましょう!

長久手市地域協働計画策定 ワークショップ報告会レポート

長久手市くらし文化部たつせがある課
令和5年5月発行

令和3年度、令和4年度の2年間に渡って開催したワークショップで話し合ったことを基に地域協働計画の素案作成し、ワークショップに参加した皆様に発表をしました。

＜ワークショップの概要＞

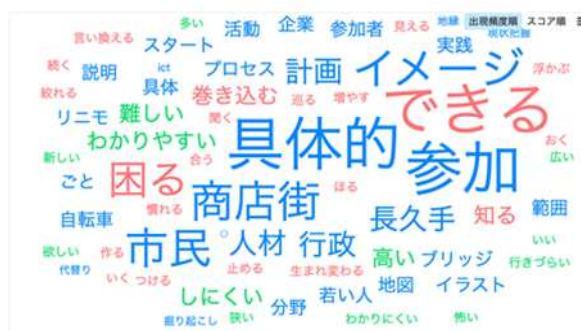
- ・日時、場所 令和5年5月14日(日)13:30～16:45 長久手市まちづくりセンター 集会室①
- ・参加者 16名(男12名・女4名)〈市民 11、職員 3、スタッフ 2〉

・実施したこと

ワーク① 地域協働計画（素案）の共有

「イマイチと思ったこと」

計画の素案を見て、イマイチ、こうすれば良いのではといった意見を出し合い、共有をしました。



希望は説明文で可。
コンセプトははっきりと、参入人にグチャレは不要。まちづくりセンターがどう生まれ変わるか、子供の未来をもっとはっきり。
話し合いのプロセスを難しくしている。
学生はすぐ代替りしてしまいがち。
切迫感がない。市民が、実際にできるイメージがない。住んでみると、こんなことで困るよ、やらなくても困らない。現状把握、は、できた。さて、具体的に何をやるのか。具体性、商店街の範囲が広すぎてピンとこない。なぜ商店街、リニモ？
地図のイメージしにくい。
対象者が限定的。
関心を持たないカタカナが多い。プロタイプブリッジコーキング、言葉が難しい。
参加しなかった方にもわかりやすく、参加者には○だが、不親切。知らない人に説明しにくい。
プロセス具体イラスト、表現、自分ごと固りごと、将来への不安、実践困難。
わかりやすく、中学生でも。
参入人を言い換えて、アルパカのイラスト。
ブリッジ人材、サミットのお手伝い。対応の場に計画会議に参加する。SNSで宣伝、まちセンに人が来るようイベント実施、計画のことを知ってる人を増やす。

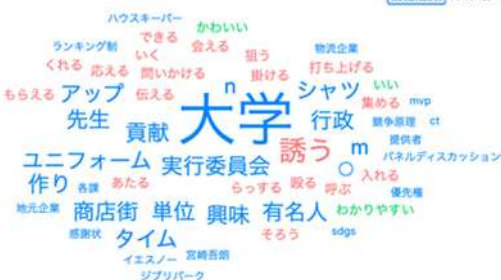
レイアウトが分かりにくいのでもう少し整理をしては。
具体的に何をやるのかがわかりづらい。
既存の再活用、掘り起こし。ジブリの活用も。

ワーク② 地域協働計画の更なる理解

「友達を巻き込むためにどうする」

協働に友達を巻き込み、輪を広げる方法を考えました。

出現頻度順 スコア順 三



わくわく感が持てる。小さな実践ができる。
大学や企業の参画を積極的に促す。
仲間が探せる、自分のアピールができる。